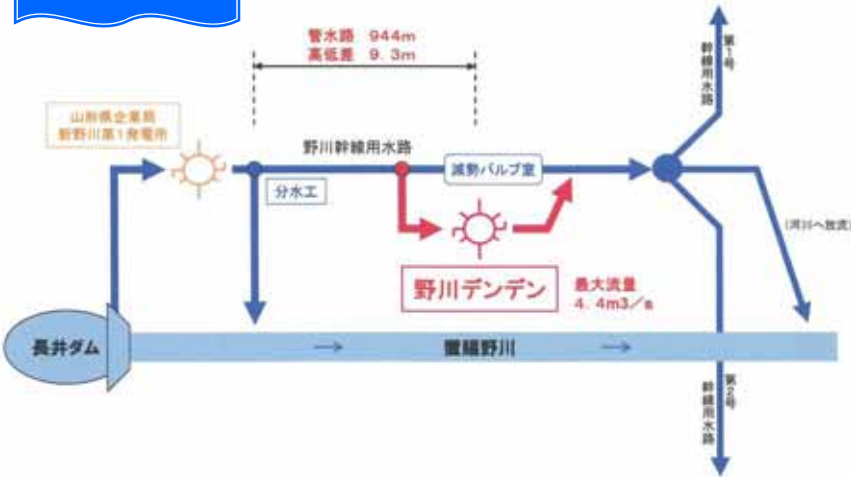


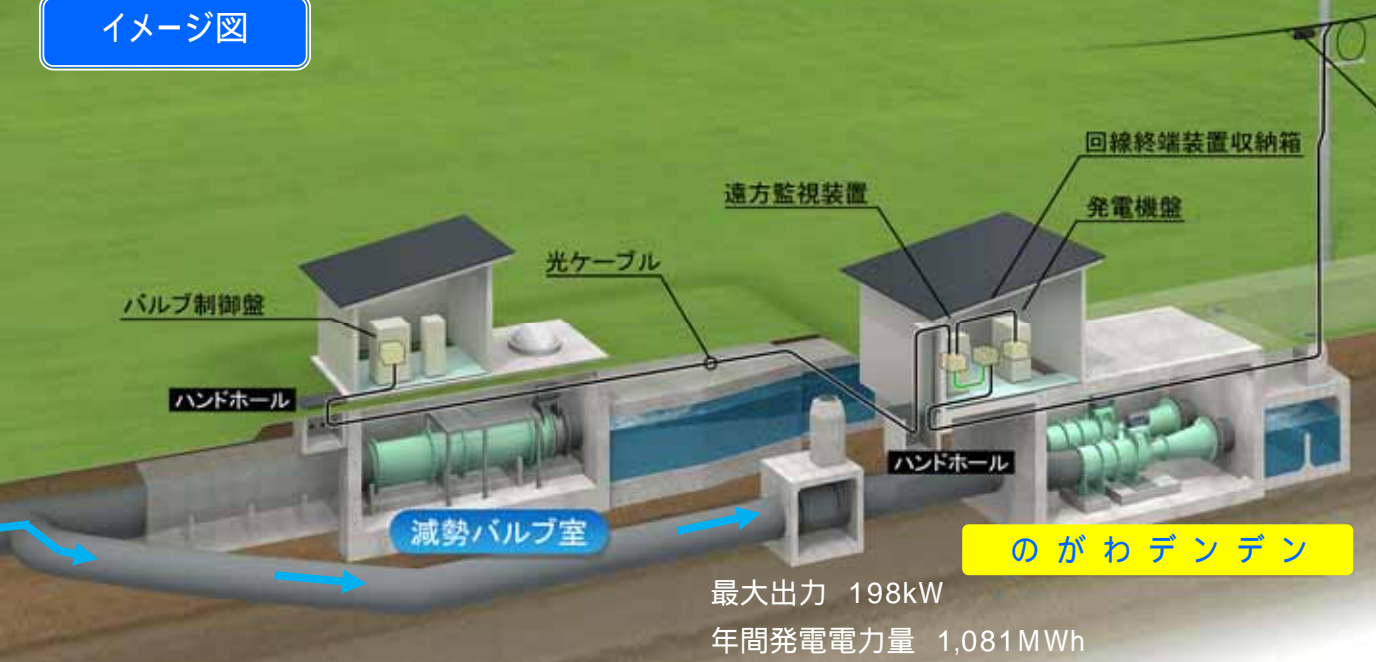
## 水の流れ



「のがわデンデン」の水は、長井ダムを取水源とする山形県企業局新野川第1発電所の放流水を活用しており、その後、置賜野川沿いに広がる農地に農業用水として供給されている。



## イメージ図



## のがわデンデンの力

「のがわデンデン」の年間発電量は、1,081MWhで、これは一般家庭約 **350世帯** が1年間生活できる電力量と同じである。

一般家庭の年間消費電力量 3,100kWh  
(電気事業連合会：1世帯当たり消費電力の推移)



野川土地改良区理事長 工藤 誠一さん



地域の方々と一緒に大切に運営管理していきます。再生可能エネルギーによる発電で社会的責任を果たせれば嬉しく思います。

# 農業用水を利用した発電所

## のがわデンデン



のがわデンデン発電機 1号機と2号機

### 再生可能エネルギーの活用

再生可能エネルギーとは、太陽光、風力、水力、バイオマス等の自然界に常に存在する「枯渇しない」、「どこにでも存在する」、「二酸化炭素を排出しない」等の特徴があるエネルギーのことである。山形県では、東日本大震災以降、安全で持続可能なエネルギー源である再生可能エネルギーの導入促進を目的とした「山形県エネルギー戦略」を策定し、卒原発社会の実現に向けて取り組んでいる。

農業用水を利用して発電を行う小水力発電所「のがわデンデン」もその1つで、長井ダムを取水源とする野川幹線水路に設置し、平成26年11月より運用を開始した。

管理・運営を野川土地改良区が行い、発電した電気から得られた収入を農業水利施設の維持管理費に充て、農家の負担軽減を図っている。

県内では、「のがわデンデン」の他にも、農業用水を利用した新たな小水力発電所の計画が進んでおり、今後、安全なエネルギーの安定供給が期待される。



「のがわデンデン」上流の自然豊かな野川渓谷



朝日連峰と長井ダム